

令和7年度授業改善推進プラン（校長作成シート）

学校名 西東京市立ひばりが丘中学校

校長名 井上 雅子

1 調査結果を踏まえた本校の状況

現在、本校の生徒は、質問紙からもわかるが、朝食、起床就寝時間の定着など、おおむね基本的な生活習慣がついている生徒が多い。そのため生徒は落ち着いた学校生活の中で学習にもまじめに取り組んでいる。上級生を中心に、学校行事にも積極的な姿が見られる。令和6年度「全国学力・学習状況調査」では、これまでの調査結果と同様に国語、数学で、国および東京都の平均正答率を上回る結果を得ている。今年度は国語、数学、理科ともに都および全国の平均正答率を4～10ポイント上回っている。

2 教員組織等の状況

20代、30代の教員が32人中16人と比較的若い年齢構成である。そのため積極的に研修、研究を行う意欲をもつ教員集団である。校内研修では、学年ごとに指導案検討を進め、全員が研究授業を行い、授業改善にチームで取り組み、高め合う教員集団である。今年度の校内研修は、「令和6、7年度東京都人権教育推進校」の指定を受けていることから、「人権教育の推進と各授業での人権感覚の育成」をテーマに、人権教育の視点を入れた授業改善に取り組んでいる。

また毎年、都の教師道場や教育研究員に教員を参加させている。今年は東京都教師道場部員が2名、道場リーダーが1名、研究員1名が参加しており、校内で行う研究授業に市内や都内から多くの教員が参観に来ることが、本校の他の教員に授業改善の刺激を与えている。次年度も道場、研究員に希望をもつ教員が出ている。

3 地域の状況

令和3年に開校60周年を迎え、その年の2学期から新校舎に移転し、新しい地域と連携し地域に愛される学校作りを行うことに努めている。移転したひばりが丘の校区は、新しいマンションや住宅地が立ち並ぶ新しく整備された地域と、ひばりが丘駅までの古くからある商店街や住宅地とが混在している。

保護者や住民は教育に大変関心が高く、PTA活動、小中のおやじの会、地域育成会など、子どものために積極的に活動する意欲と活力をもつ。今後も学校運営協議会を中心に、学校・保護者・地域が一体となった「行動連携」「相互互惠」関係を構築し、信頼されるコミュニティスクールを推進している。

4 前年度までに行った学力向上に係る取組を踏まえた本校の状況

平成30～令和元年度「西東京市立学校研究奨励事業研究指定校『小中一貫教育』」を行い、生徒が主体的に学ぶ学習の確立と確かな学力の育成を目指した。令和2年度からこれまで研究の成果である「授業スタンダード」（めあてをつかむ→主体的に取り組む→高め合う→振り返る）を基本的な学習過程とし、授業改善に取り組んできた。令和2年度からは、校内研修委員会を中心に、全教科において、授業スタンダードを基本に、生徒の「主体的・対話的で深い学び」に繋がるための授業改善に取り組んでいる。また令和3年度からは、タブレット等のICT機器を効果的に活用する授業改善を加えた。令和4.5年度には、本校の話し合い活動「ひばりスタンダード」を国語科以外の全ての授業でも実施し、自分の意見を伝え、他の意見を聞いて考えを深めることで、言語活動の充実につなげている。また「令和6、7年度東京都人権教育推進校」の指定により、「ひばりスタンダード」による互いに尊重しあう話し合い活動を研究テーマの中心に据えて、人権教育の視点を明確にした研究授業を全員で取り組んでいる。

【国語】ほとんどの設問で都・全国の平均よりも高い正答率であった。特に「話すこと・聞くこと」の正答率が高く、普段の話し合い活動が充実していることがわかる。また、記述式の正答率が高いのは、自分の考えを書く機会を多く設けている成果だと考える。しかし語彙の理解と目的に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がみられる。授業内では、語句の意味調べに取り組み、自分の考えを伝えるときに目的を意識させたうえで効果的な方法を考えさせる活動を取り入れていくことが必要である。

【数学】今年度は4つの領域・3つの観点ともに全国平均より5ポイント以上上回った。10ポイント上回る場所もあった。習熟度別少人数授業で生徒の実態に合わせた授業進度で理解度を高められたと考えられる。特に文字による説明と、一次関数の変化の割合と増加量の関係の問題で、全国・都の平均を上回ってはいるが、他の設問に比べて正答率が低い傾向があった。図形の証明は理解しているが、文字や式を用いての説明は深く理解しているとはいえない。結論を導くために、事象を文字式で表す思考力を高めなければならない。また、関数の基礎知識が定着していないといえるので、反復練習が必要である。

5 本校で取り組む学力向上策

(1) 西東京市教育計画に基づいた。教育の質の向上と活性化を推進する。

- ・「授業改善推進プラン」を基に、全教科・領域で「課題の明確化と改善」を図る。1単位時間の学習過程で、「小中一貫」の研究の成果、「授業スタンダード」を実践する。
- ・全教科、領域を通じて、「ひばりスタンダード」の話し合い活動を行い、自身の意見を広めたり深めたりして発表し合う学習を推進する。
- ・数学科の習熟度別少人数指導を中心に個々の生徒へ、丁寧で質の高い適切な教育を推進する。
- ・学習遅延が心配される生徒等へのひばりルーム（長期休業中および試験前の補習教室）を実施し、基本的学習スキルの定着を図る。
- ・通年での朝読書の推進による言語能力向上を図る。
- ・一人一台のタブレット端末を効果的に活用し、プレゼン資料を作成し、自分の意見を発表し他と交流したりすることで思考・判断・表現の育成を図る。
- ・タブレット端末を活用した家庭学習の充実により、主体的に学習する態度を育成する。

(2) すべての校務について「チームひばり」の意識をもつ

- ・学習指導要領に基づき、自ら授業改善に努める教師集団を目指し、協働して互いに高め合う組織をつくる。2学期に、一人一回以上の研究授業を実施し、人権教育の視点を入れた主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善を全員で行う。その際、年2回の生徒による授業評価を教員一人一人の授業改善のための指導案作成に生かす。そのために夏休み前に、教科ごとに指導案検討を行い、夏季休業中に指導案の作成を行う。授業後には相互に評価し合い、教員一人一人が授業改善を実現させる。
- ・体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組むため、「西東京あったか先生」研修を基軸とした日常的な服務規律の徹底に取り組み、授業では一人一人の「わかる」を実現させる。
- ・組織運営上のリーダー層の確立と若手教諭の指導力向上OJT体制を充実させることで、学校組織としての教育活動の質の向上を図る。各分掌主任の統括の下、校内分掌の役割分担の整理、スリム化を図るとともに、進行確認・連携・調整を徹底し、適切な教育進行を行うとともに、主幹・主任教諭を中心に中長期的な課題を整理・調整を行う。
- ・GIGAスクール教育推進教師を中心に、ICTを活用した授業の提案や研修、研究授業の実施等を行い、GIGAスクール構想を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。特に主体的に学習し、思考力・判断力・表現力を高める効果的な活用の指導方法を協議し各教科の授業改善につなげる。また不登校生徒には、できるだけタブレットを活用したオンライン授業を実施する。

(3) 調査を実施した教科の学力向上策

【国語】

語句の意味調べを充実させる、目的に応じて効果的な発表方法を検討する授業を取り入れるなどの方策で、調査結果の課題に対応していく。

【数学】

- ・定期考査、単元別テストの結果と生徒アンケートを踏まえた上での習熟度別少人数授業の実施。
- ・定期的な放課後のひばりルームでの質問教室の実施。
- ・各コースの進度や生徒の理解度や到達度を確認するために数学科の教員が集まって会議を行う数学部会の実施。